

南山大学大学院
入学試験
出題の意図および解答例

人間文化研究科
言語科学専攻

2026年度・春季

NANZAN
UNIVERSITY

目 次

《博士前期課程》

英文資料を基に解答する科目	1
〔国内在住外国人入学審査〕	3

<出題の意図>

アドミッション・ポリシーに基づき、本専攻で学ぶにあたって必要な英語読解力および英語運用能力を確認する。

<解答例・評価のポイント>

この設問では以下の点を主な評価のポイントとして採点をおこなった。なお、英文資料の内容を理解した上での説明を求める問題であり、一義的な解答を示すことが難しいため、解答例の提示はしない。

問1 意味学習という文脈を捉えつつ、(下線部直前の **fact that** を基に) 下線部自体が一般事実を表現しているのを把握しながら、下線部後の背景的事例と関連付けて答えているかどうか。

問2 後述される意味のシステムの一部を想定しつつ、**how** による疑問節と **such that** に導かれる節との関係を明確に捉え、意味のマッピングの点から見た下線部内容の重要性について答えているかどうか。

問3 下線部前の例示内容と下線部内の **L1** および **L2** との対応を捉え、融合関係詞 (**fused relatives**) による節 “**what must be...**” を正確に解釈しつつ答えているかどうか。

問4 下線部前の例示内容と下線部内の **such distinctions** および **binary** との対応を捉え、下線部後に述べられる **a three-way distinction** と対比し得ることを想定しながら答えているかどうか。

問5 下線部前の例示内容と下線部内の **when** 副詞節の内容を正確に結び付け、**a semantic feature** の役割を把握しながら、意味学習における意味特徴/素性の編入を想定しつつ答えているかどうか。

<出題の意図>

用語問題

言語学、日本語教育、英語教育の各領域から出題された基本的な用語について、その説明を求める問題である。出題された合計10個の用語の中から3つの用語を選択して説明する。本専攻におけるアドミッション・ポリシーの中で、志願者に求める資質の一つとして掲げている「人間の言語と文化への深い関心と、言語学あるいは言語教育に関する基礎的な知識」に照らし、各領域の基礎的知識を問うている。

論述問題

言語学、日本語教育、英語教育の各領域から出題された問いに対して、自らの考えを論述させる問題である。出題された合計3つの問題の中から1つの問題を選択して論述する。本専攻におけるアドミッション・ポリシーの中で、志願者に求める資質の一つとして掲げている「人間の言語と文化への深い関心と、言語学あるいは言語教育に関する基礎的な知識」に照らし、人間の言語と文化への深い関心と、各領域の基礎的知識および論述力を問うている。

<解答例・評価のポイント>

用語問題

各用語に関する説明について以下の4つのポイントから評価する

- (1) 当該の用語の定義あるいは簡潔な説明がなされていること。
- (2) 当該言語事象の具体例や当該項目に関する具体的な事例があげられていること。
- (3) 当該言語事象・当該項目と関連する項目への言及があり、当該言語事象・当該項目の各領域における位置付けについての説明があること。
- (4) 表現が分かりやすく、論理的な文章であること。

論述問題

以下の3つのポイントから評価する

- (1) 当該の問いに対する、自らの考え・主張が明示的に述べられていること。
- (2) 自らの考え・主張の根拠となる事柄が具体的に述べられていること。
- (3) 表現が分かりやすく、論理的な文章であること。

<出題の意図>

アドミッション・ポリシーに基づき、本専攻で学ぶにあたって必要な英語読解力および英語運用能力を確認する。

<解答例・評価のポイント>

この設問では以下の点を主な評価のポイントとして採点をおこなった。なお、英文資料の内容を理解した上での説明を求める問題であり、一義的な解答を示すことが難しいため、解答例の提示はしない。

問1 意味学習という文脈を捉えつつ、(下線部直前の **fact that** を基に) 下線部自体が一般事実を表現しているのを把握しながら、下線部後の背景的事例と関連付けて答えているかどうか。

問2 後述される意味のシステムの一部を想定しつつ、**how** による疑問節と **such that** に導かれる節との関係を明確に捉え、意味のマッピングの点から見た下線部内容の重要性について答えているかどうか。

問3 下線部前の例示内容と下線部内の **L1** および **L2** との対応を捉え、融合関係詞 (**fused relatives**) による節 “**what must be...**” を正確に解釈しつつ答えているかどうか。

問4 下線部前の例示内容と下線部内の **such distinctions** および **binary** との対応を捉え、下線部後に述べられる **a three-way distinction** と対比し得ることを想定しながら答えているかどうか。

問5 下線部前の例示内容と下線部内の **when** 副詞節の内容を正確に結び付け、**a semantic feature** の役割を把握しながら、意味学習における意味特徴/素性の編入を想定しつつ答えているかどうか。

発行：南山大学 入学センター

名古屋市昭和区山里町 18 番地

Phone : (052)832-3119

E-mail : nyushi-ka@nanzan-u.ac.jp

U R L : <https://www.nanzan-u.ac.jp/>